

対象年度		令和 4年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		本場結城紬振興事業						予算事業名		本場結城紬振興事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	伝統工芸本場結城紬技術習得奨励金補助金 交付要項（単年度要項）					
				07	01	03	1103	経常経費							
総合計画体系		歴史と自然を育み にぎわいと活力ある産業を目指そう 地域資源を活用したにぎわいと交流の促進 伝統産業の振興						事業の区分		主要事業					
								担当課係等		商工観光課 商工振興係					
		事業期間		継続（ 年度～ 年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
本場結城紬振興を目的に、本市の地域資源である「結城紬」を活用し、きもの文化及び結城紬の普及促進を図り、観光施策と結び付け、結城紬産地全体として活性化を図る。								生活様式の変化などの影響により、結城紬の生産数は減少し続けている。平成27年度より結城紬きもの貸出事業を開始した。栃木県小山市でも平成28年度より駅前クラフト館にて同事業を実施している。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
①駅前の観光物産センター及び伝統工芸館において、結城紬の地機織り等の実演を茨城県本場結城紬織物協同組合へ委託し実施する。 ②市民や観光客を対象に、結城紬きもの貸出事業をゆうき着楽会へ委託し実施する。 ③結城紬きもの貸出事業やイベント等で使用する市所有の結城紬について、きものを仕立てたり、クリーニング等を行い整理を行う。 ④着付け講座及び結城紬に関する講習会を開催することで、和装文化や結城紬の歴史に対して、市民の関心を高めるとともに次世代の担い手を育成する。更には、各種イベントにおいて、結城紬着心地体験を通じて結城紬や本市のPRを行う。 ⑤結城紬各団体に対し、結城紬振興事業の支援を行うことで、製品の販路開拓及び産地の安定を図る。								市民・観光客 結城紬関連組合							
								【事業をとりまく環境の変化】							
								平成27年度に結城紬きもの貸出事業が本格的に実施され、ゆうき紬着付け処「着楽」が駅前情報センターテナントに設置した。 平成28年度には、地方創生加速化交付金を活用した結城紬ブランディング事業により、結城市伝統工芸館をリニューアルし、結城紬を地域資源として活用した事業を展開した。							
【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】							
①結城紬機織り実演事業及び結城紬きもの貸出事業、着付け講座の実施。常時観光を目指すため、繁忙期の実演を追加する。 ②各種イベントへ参加し、結城紬着心地体験を通じて、結城紬や本市のPRを行う。 ③検査協同組合及び技術習得者へ家賃支援等を補助する。				①結城紬機織り実演事業及び結城紬きもの貸出事業、着付け講座の実施。 ②各種イベントへ参加し、結城紬着心地体験を通じて、結城紬や本市のPRを行う。 ③技術習得者へ家賃支援等を補助する。				①結城紬機織り実演事業及び結城紬きもの貸出事業、着付け講座の実施。 ②各種イベントへ参加し、結城紬着心地体験を通じて、結城紬や本市のPRを行う。 ③技術習得者へ家賃支援等を補助する。							
■事業費															
				R02年度		R03年度									
財源内訳	国	庫	支	出	金	0	0								
	県		支	出	金	0	0								
	地		方		債	0	0								
	そ		の		他	5,000	5,000								
	一		般	財	源	10,288	11,290								
歳入計（千円）				15,288		16,290									
歳出内訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）									
	07	報償費			135	290									
	10	需用費			149	150									
	11	役務費			600	900									
	12	委託料			3,541	3,593									
	13	使用料及び賃借料			0	45									
	14	工事請負費			0	1,000									
	15	原材料費			611	700									
	18	負担金補助及び交付金			5,252	4,612									
	20	貸付金			5,000	5,000									
歳出計（千円）（A）				15,288		16,290									
伸び率（％）						6.55									
備考															

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	結城紬機織り実演日数	日	目標	421.00	421.00	490.00
	観光物産センター及び結城市伝統工芸館		実績	421.00	0.00	0.00
	市所有結城紬きもの枚数	枚	目標	59.00	63.00	67.00
	貸出事業での活用枚数		実績	59.00	0.00	0.00
成果 指標	結城市伝統工芸館来館者数	人	目標	2,200.00	2,200.00	2,300.00
	令和2年度は、新型コロナウイルスにより休館等あり		実績	491.00	0.00	0.00
	補助団体数	件	目標	6.00	6.00	6.00
			実績	6.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	本市において結城紬は地域資源であり、事業の必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	地域資源である結城紬を活用した事業を行政も一体となって実施する。
	手段の妥当性	A 妥当である	機織り実演やきもの貸出事業について、関連団体に委託しており、それ以外に実施可能な団体はない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	結城紬関連団体に投入した費用に対し、目に見える効果は得られないものの現状維持が図られている。また、きもの貸出事業を委託しているゆうき着楽会においては、一定レベルの成果は上げられている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広く一般市民・観光客に対する事業を行っている。 補助事業については、受益者は限定されている。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	結城紬の振興に対して、これまで様々な対策を講じてきた。結城紬の従事者や生産反数の減少はあるものの、大幅な減少ではなく微減となっている。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	結城紬機織り実演については、成果物(反物)を本事業において着物に仕立て、貸出事業と連携を図っている。結城紬きもの貸出事業においては、ゆうき着楽会と連携しながら市内をはじめ県外に向けて結城紬のPRを行っている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
機織り実演を行うことで、市民はじめ観光客に対して伝統工芸士の職人の技への興味を持ち、そこから体験に繋がっている。結城紬きもの貸出事業は、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、市民への認知度も高まってきた。また、ゆうき着楽会においては、首都圏をはじめ更には海外へ進出している。現在では、埼玉・千葉・東京・神奈川県の間東圏域からの誘客が図られている。結城紬関連組合においては、各組合が単独で事業を実施するのではなく、連携して実施できるようにしていく必要があると思われる。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
これまでの機織り実演は、土日祝日の観光客を見込んで予算化したが、常時観光を目指しているため、平日の来館もある。そのため、繁忙期（予約者）がある場合には実演をみせれる体制が必要と思われる。また、ゆうき着楽会においては、貸出事業だけでなく独自事業として、ワークショップを通して海外へ進出していることから、更なる発展を期待できる。結城紬関連組合においては、各組合が連携し独自に実行委員会組織を形成し、国の補助金を活用している。今後も、自走に向けて行政として支援をしていく必要がある。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容	結城紬は、販売不振と従事者の減少により生産反数が減少し、結城紬産業の衰退が危惧されていることから、組織への新たな支援と後継者確保のための効果的な施策を実施する。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）	財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。